

第2回豊川市総合保健センター（仮称）基本計画等策定委員会会議録

日 時	令和2年10月19日 午後1時30分から午後3時00分まで
場 所	豊川市勤労福祉会館視聴覚室
出席委員	柳澤委員（会長）、白垣委員（副会長）、小澤委員、鳥山委員、平野委員、辻村委員、伊藤委員、石川委員、豊田委員、前田委員、飛安委員、桑野委員、鈴木委員、岩村委員、飛田委員、宇井委員、小久保委員（17名） 【オブザーバー】 愛知県保健医局健康医務部医療計画課 竹島担当課長、坂田課長補佐
事務局	子ども健康部保健センター 【委託業者】アイテック株式会社

発言要旨等会議内容は、次のとおりです。

1 会長あいさつ

関係者ヒアリングでは積極的な意見交換がなされたと聞いている。本日の議論結果について、可能なものについては、基本構想等に反映できればと考えている。

2 議題

(1) 関係者ヒアリングの実施結果について

事務局 関係者ヒアリングの実施結果について、要点をまとめて説明。

議 長 この場で結論を出すわけではないが、他の機関からの意見について、疑問点や意見はあるか。今後の調整を行いたい。

医師会、歯科医師会は防災対策の件で多く意見をいただいているが、追加で意見はあるか。

委 員 先日、三師会を含めての防災訓練を実施した。スペースや通信等様々な問題が出てくるだろうが、防災対策の観点からは、三師会が同じ建物内に入ることになるのはありがたい。

委 員 新センターにどこまでの防災に関する機能を持たせるかは、今後の検討になると思う。また、市民病院との棲み分け、機能・設備についても検討が必要である。

委 員 三師会の災害対策本部設置の希望はある。無菌調剤室も可能であれば、設けて欲しい。

委 員 市民病院と休日診療所をどのように分けるかが懸案事項。個人的な意見ではあるが、両者を分けることは難しい。現状、時限的ではあるがオンライン診療が始まり、今後も恒久的に実施される可能性もある。その場合、

休日急病診療所に来る救急患者の内、重症者は市民病院に依頼する形を継続し、軽症者についてはオンライン診療等を活用すれば、両者の接触機会や費用負担、施設管理料の削減等につながるのではないかと。前回のヒアリング時は普段の診療をイメージした話をしたが、休日急病診療所はその日1日をいかに過ごすかも重要で、患者動線等を考慮して検討が必要である。

委員 ヒアリング内容でも紹介があったが、地域包括支援センター、子育て支援センターの併設については、機能的に精査していただきたい。財産管理課の必要最低限の施設をとる意向も理解できるが、機能の拡充については検討してほしい。

委員 ヒアリングでは夢を語っており、理想と現実の違いも理解しているが、新センターに対する期待は大きく、住民が望んでいる機能を設置したい。どの部分を叶えられるかは難しいが、少子化で子ども数も減っても、悩みが減るわけではない。孤立している親子のためにも新センターが有効に利用できる形になると幸いである。

委員 立派な新センターを整備してほしいが、高齢者にとっては移動が壁であり、利用しやすいところにあることが重要である。どうしたら施設から遠い場所に住んでいる人の健康を維持できるのか、難しいが検討いただきたい。

委員 ヒアリングでは「思い」を語っていただいたが、すべてを構想・計画に取り込むことは難しい。コストや規模、現状、将来的なコストパフォーマンス等を含め総合的に判断し、改めてご提案させていただく。各機関の当初意向と異なるものが出てくる可能性があるが、その際は皆さんに議論いただき、決めていきたい。

議長 これらを踏まえて今後のあり方を検討していけば、新しい方向性が見えてくると考える。

(2) 豊川市総合保健センター（仮称）のあり方等について

事務局 豊川市総合保健センター（仮称）のあり方等の検討における、検討事項について説明。

ア 休日夜間急病診療所の管理運営方法

事務局 休日夜間急病診療所の管理運営手法について、導入事例を含めて説明。

委員 事務局説明に加え、愛知県内の事例を追加で説明。事務局データと若干異なるため、事務局側へ再度確認の依頼もあり。

議長 愛知県内では休日夜間といっても平日や24時間体制の運営を行っている診療所もあるようである。この件に関して意見・質問はあるか。

委員 指定管理者制度については、よく出る話題ではあるが、休日夜間急病診療所の件は、本会議で挙がるまで話も聞いていなかったため、医師会では検討もしていない。管理運営方式のメリット・デメリットについても、現場としては正直分かりづらく、本当に指定管理者制度が良いか理解できない。

東三河の特殊性について話をすると、名古屋地区等は2次、3次救急に対応する病院が多いが、東三河（豊橋、豊川）は市民病院しかほとんど機能しておらず、1次救急の受け皿が必要である。豊橋は医師会の会員数も多いため幅広く対応できるが、豊川は会員数が少なく、365日年中無休で対応するのは負担がかかる。実際委員提出資料でも、大きい医師会以外はほとんど平日の夜は対応していない。医師会は豊川市民病院の負担を軽減すべく年中無休で対応しているのであり、指定管理者制度の導入については、個人的には反対である。

今後このような体制を検討しなければならないのであれば、例えばコロナで患者が激減した場合の赤字補填やインフルエンザで患者が急増した際の三師会での按分等について、市と相談しなくてはならない。その他、人間的な面（職員増員の人件費や福利厚生費等）も豊川市医師会の規模では到底できるものではない。また、東三河は看護師がかなり不足しており、医師会で確保するのも難しい。仮に人材派遣会社等を用いれば費用は高額となる。詳細条件を提示してもらった上、理事会で検討しなくては話には乗れない。この場でいきなり議題として挙げたが、医師会としては非常に戸惑っている。歯科医師会の会長からも話があると思うが、三師会として足並みを揃える必要があり、きちんと議論しなければ先に進まないと思う。

議長 三師会及び休日夜間急病診療所として意見はあるか。

委員 前出の意見に賛成。今回のコロナの事例では、病院やクリニックの消毒薬やマスクの調達は、全て愛知県が管理していた。民間ノウハウは発揮できない状況であった。

委員 歯科医師会としては市に委託事業を提案しているが、指定管理者制度については最近聞いた話であり、あまり詳しくないため、今後検討しなければならないが、三師会で統一した制度で行った方が良いとは思う。今後三師会で調整していきたい。

委員 薬剤師会としても、医師会、歯科医師会同様、指定管理者制度を行う場合はもう少し詰めた議論が必要と考える。

薬剤師会限定の話になるが、ここ10年は赤字決算となっており、その原因が休日診療所に配置する薬剤師の追加給与分によるものとなっている。

どのような形になるか分からないが、三師会として一体で進めたいと考える。

議長 詳細について、懸念事項があるということと思う。市民病院との関係や市がどこまで協力するか等、検討事項が多いと思うが、所長としてはどうか。

委員 まずは今後詳細な数値やメリット・デメリットを提示しつつ、最終的に結論を出すべき大きな課題として、この件を提示させていただいたという点をご理解いただきたい。この場で決定するという事ではない。

運営方法だけでなく、一次救急をどのような形で実施していくかについても三師会と詰めなければならない。今回は管理運営方法を決定すべき一つの事項として提示させていただいたということである。

議長 本日は議論の頭出しという形で、ここから改めて三師会の先生方中心に市と話し合いを詰めていくということによいか。

委員 問題ない。

議長 少し時間がかかりそうな議題ではあるが、一つの可能性として、今後またご検討いただきたい。

イ 整備手法の検討

事務局 様々な整備手法について、各方式を説明。

※特段意見なく、次回に具体的な方針を示すことで合意

ウ 旧町保健センターの方向性

事務局 旧町保健センターの現状説明及び今後の方向性について説明。

議長 市民にとっては関心の高い課題だと思うが、何か発言はあるか。

委員 豊川市のマニフェストにおいて、介護予防事業の充実の部分に地域の通いの場の充実・増加、運動機能の向上とあるのに、3施設を廃止する方向としてよいのか。

委員 地域になくてはならないサービスについては担保するという前提で、費用対効果や職員配置等を考え直していくものであるとご理解いただきたい。今後アウトリーチ型のサービス提供も進めていく中で、電子化や自動化を含め、効率的・効果的なサービスの提供についても考えていきたい。

委員 今の発言は理解できるが、どういう機能が新センターに引き継がれ、どういう機能が旧町保健センターに残るのが分からない。資料上ではなく、す方向とされており、施設維持管理費についても、個人的には高いと感じるものの、全体的な市の財政のバランスとして、高いのか安いのかは分からない。それらを確認した上、フラットな観点で検討すべきと考えるがい

かがか。

委員 旧町保健センターの利用状況、必要経費については資料に掲載されているが補足説明をすると、現状、地域では主に育児相談、健診事業を行っている。保健師は常駐しておらず、保健センターから出向き、月に1度程度の育児相談や妊産婦の活動等を行っている。実際にそのような教室について、アンケートでも確認中であるが、保健センターでなくとも、近くの公民館等公共施設等で実施することや、旧町保健センターを用途変更し、保健センターが月に1度程度借りて利用することも考えられる。「人」、「資金」を有効活用し、保健サービスの質を落とさず、効率的な運営が実現できないかを検討したい。資料の作り方で誤解を招き申し訳ないが、主旨はそのような点にある。

今後、構想・計画を策定する上で、具体的な案を出していきたいと考えている。その際には、委員の皆様にご意見・ご提案をいただきたい。

委員 施設の利用数が少ないことは残念であるが、高齢者としては近くにあるからこそ、利用できるということもある。施設が撤退することはないということではよいか。

委員 撤退という表現は改める。

委員 できるだけ地域に利用できる活動の場を残してほしい。

議長 皆様が懸念されているのは、旧町保健センターの形が消えてしまうことにより、機能も消えてしまうことではないかという点にあると思う。今は消えるという情報しか見えていないため、今後オンライン等含め、どのような形で今までの機能を担保するのかを示す必要がある。市側には今後の実施方法等のイメージがあると思うが、委員はイメージがつかめない。「このように対応する」等、構想を提示いただけるとよいのではないかと。

事務局 資料の作り方が悪く、申し訳ない。新センターの機能を決めるにあたり、現在旧町保健センターで実施している保健事業の集約化等、将来的なあり方の検討が必要となっている。現時点で結論を示しているわけではない。現在実施中の利用者アンケートの結果等を踏まえ、新たに資料を提出するということがよいか。

委員 会長より話があった通りの方向性で良いのではないかと。

委員 旧町保健センターにおいて、成人病健康診査・特定保健指導等の件数は平成29年からほとんどが減少しているが、保健センターにおいても同項目が減少している。老人が増えているにも関わらず、減少している要因が分からないため、教えて欲しい。

事務局 資料中の成人病健康診査・特定保健指導等はあくまで保健センターでの実施数であり、医療機関で実施している個別健診は入っていない。集団健

診から個別健診に移ってきているのではないかと考える。

議長 個別に診療所等で受けているということか。

事務局 そのとおり。

委員 少し補足させていただくが、旧町保健センターのあり方を検討していく中で、健康福祉センターについては、高齢者施設（入浴施設）が令和元年度に 72,000 人の利用がある。また、御津福祉保健センターでも同様に福祉施設は令和元年度で 44,393 人利用している。このことから、「保健センター」の看板を下げても、福祉施設としてはすぐに無くなるわけではなく、建物そのものが消えるものではないと理解いただけたらと思う。

議長 保健センター機能部分だけが資料に示されており、保健事業以外の目的での利用者は示されていないということか。

委員 そのとおり。今後もこの場所で保健センターの何らかの業務を行うことは可能である。

委員 色々のご意見をいただき、感謝する。旧町保健センターの方向性について、資料で誤解を招く表記をして申し訳ない。いかまい館等は高齢者利用部分と保健センター部分があるが、保健センター部分の有効利用については今後の方向性として検討したい。決して保健事業を撤退するという話ではないので、ご理解いただきたい。先ほどあった介護予防の話も重要であり、他事業でも有効に使っていただきたいと考えており、今後ご協議いただきたい。

議長 行政の中では、福祉センターと保健センターは違う機能であり、うまく伝わらないと建物が無くなるという印象を受けるが、この説明で理解できた。

事務局 1点補足であるが、保健センターの利用状況において、令和元年度後半の減少については、新型コロナウイルス感染症により事業を縮小していることも影響していると思われる。

議長 現在行っているアンケートの結果を踏まえて検討するということとし、アンケートの実施についての説明に移る。

(3) 利用者アンケートの実施について

事務局 現在実施中のアンケートについて、先ほど議題に挙げた旧町保健センターについて質問していることも含め、説明。結果については次回の策定委員会で報告予定であることについても伝達。

※特段の意見なし

3 その他

委員 コロナの影響で今後ITが重要となるが、時代の流れが早く、建物建設後以降も大きく変化していくことが予想される。この点を工夫し、アップデート等を含めた検討が必要である。最新のものを導入すればコストが高く、汎用性があるものを導入すればコストは低いが、2～3年遅れたものになる。IT関連に関しては研究し、WEB診療や各種情報配信等含め、運用面について、しっかりと議論をしていけたらと思う。

議長 「日本一子育てしやすいまち」という構想の下、総合保健センターがどこまで踏み込んで事業を行うか。また、それ以外の市の行政サービス等をどのような形で充実させていくのか。現状、豊川市、市民、三師会の間にギャップはあるが、それを埋めることによって、最終的に豊川市民にとって最も良い形となればよいと考える。

4 事務連絡

事務局 次回策定員会開催についての事務連絡。

以上